

ファミサポ通信

事前に**危険**を知って備えましょう!

自動車事故編

— 安心・安全な活動のために —

ファミサポの相互援助活動で

一番大切なことは、安心・安全な活動を行うこと。

そのために、事前にどんな危険があるのかを知って備えておけば、事故の発生を防いだり、ダメージを軽くしたりできます。

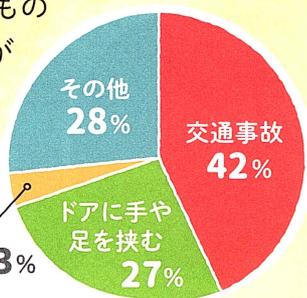
全国ファミサポの活動において、平成30年度に発生した事故で最も多いのは、子どもが転ぶ・つまづくなどの転倒事故で、次に多いのが自動車事故です。(女性労働協会調べ)糸島市は公共交通機関が少なく、送迎で自動車が欠かせないため、特に注意が必要です。

自動車事故の内訳のグラフを見ると、走行中や駐車場での接触事故をはじめ、子どもの開けたドアが隣の車に傷をつけるなどの「交通事故」が42%を占めています。次いで「子どもがドアに手や足を挟む」が27%です。嫌がってシートベルトを外し落下するなど、子どもの行動が



事故の要因となっていることも少なくありません。

子どもは予期しない行動に出るものと、大人が十分に注意を払うことが必要です。



ファミサポの活動における自動車事故の内訳

女性労働協会実施平成30年度ファミサポ・サポートセンター全国実態調査より

チャイルドシート関連 3%

子どもとの「お約束」を!

守れるように、おねがい会員もサポート会員もそれぞれ声掛けをしましょう。



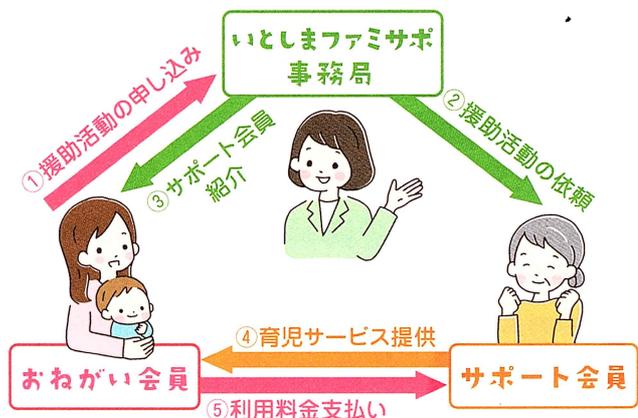
- ① シートベルトをきちんと締めること
自分で勝手に外さない
- ② 車に乗ったら激しく動いたり、騒いだりしない
- ③ 車を降りたら、必ず大人と手をつなぐこと

自動車での送迎の注意点をまとめた「送迎チェックリスト」で、サポート会員は必ず活動前に安全を確認してください。手元がない場合はセンターまたは、ホームページから入手できます。

また、自家用車を使用するサポート会員は、免許証や自動車保険の有効期限は切れてないか、自身が自動車保険の補償範囲に含まれているか、改めて確認をお願いします。4月からは、自家用車を使った送迎の依頼があった際に、アドバイザーからも確認いたしますのでご協力ください。

ファミサポとは?

子育ての援助をしてほしい人(おねがい会員)と子育ての援助をしたい人(サポート会員)が会員となって、子どもの預かりなど、一時的に子育てを助け合う有償ボランティア事業を行っています。昔に比べて希薄になってきた地域の仲を取り持ち、「地域での子育て」を目指しています。



サポート会員はご近所さん 信頼して任せられる安心感



福田陽菜さんは、広汎性発達障害(自閉症)があり、特別支援学校に通う小学5年生の女の子。放課後は週6日デイサービスに通っています。

ファミサポを利用するのは、学校が休みで両親の仕事がある土曜日と祝日。デイサービスに行く時間帯の前後の朝8時から9時半までと、夕方4時半から5時半まで、1日2回のお預かりと送迎をサポート会員に依頼しています。



おねがい会員

ふくだ よしみ ひな
福田 仁美さん・陽菜さん ※2021年4月で5年生

サポートのおかげで正社員への道が開けた

福田仁美さんが介護職のパートを始めた頃、デイサービスのケアマネージャーにファミサポの紹介してもらったのが利用のきっかけ。

「自閉症を抱える陽菜は、人見知りで集団行動が苦手。こだわりが強く、

思ったことはやり通す性格。学校へ送り出すのが大変な時もありました」と当時を振り返る福田さん。

最初は不安もありましたが、徳久さんの家が近所ということもあり、信頼して預けようと決めました。ファミサポを利用してからはフルタイムで働けるようになり、1年後には正社員になりました。「サポートのおかげで安心して働くことができます」と笑顔の福田さん。

良い変化は陽菜さんにも見られるようになりました。何気ない陽菜さんの言葉に、徳久さんなどサポートしてくれる人たちと関わることで、相手への思いやりが育まれているのを感じるそうです。

「障害を理由に自分や子どもに制限をかけず、最初の一步を踏み出すチャレンジをすれば、可能性がもっと広がっていくはず」と、福田さんは同じような状況にいる人へエールを送ります。



送迎車で帰ってきた陽菜さんを迎える徳久さん
左はデイサービス「チャイルドハートニ丈」ののぞえ野添さん

サポート会員

とくひさ とよこ
徳久豊子さん

ファミサポを利用して ひと息ついてね、お母さん

友人に誘われるまま参加したファミサポの講習会。

「3人の子育て、孫の世話、託児ボランティアの経験もあるし、私にも

できるだろうと思った」と話す徳久豊子さん。学校役員など長年務め、自ら

楽しむことが大好き。大きな声で笑う徳久さんに、顔合わせで初めて会った陽菜さんもすぐに打ち解けました。

お預かりの間は、陽菜さんとテレビを見ながら、歌やダンス、体操を一緒にします。英語が得意な陽菜さんに、発音を直されることも。「陽菜さんが疑問に思ったことには、一つ一つ丁寧に答えるようにしています」と徳久さん。印象に残っているのは、近所の人に「頑張ってるね」と声をかけてもらい心強かったことと、顔合わせの時「やっと預けるところが見つかってよかった」と、ほっとした福田さんの顔。

「子育て中のお母さんたちにもっとファミサポを知ってもらって、安心して仕事に専念したり、ひと息ついたりするために利用してほしい」と話しました。



必要なのは
柔らかな
まなざし

子どもにとって 遊ぶことは生きること



山下智也先生

昨年11月、ファミサポ初のオンライン公開講座を開催しました。在宅視聴と会場でのパブリックビューイングに、合わせて約30人が参加。北九州市立大学文学部人間関係学科准教授の山下智也先生に、「子ども主体の遊びのために私たちができること」についてお話いただきました。

山下先生は日常的な子どもの遊び場として福岡市東区の箱崎商店街にある「きんしゃいきゃんぱす」を運営。大人が「これをしよう」と遊びを管理するのではなく、子どもたちの「やってみたい」を大切に活動しています。ここでは大人は状況に合わせて、遊び相手になったり、遊びのきっかけを作ったり、子どもが遊びたいと思える雰囲気作りを心がけています。子どもたちの居場所にもなっており、悩みがある子どもが「この場所があってよかった」とぼろっと涙を流したという話に、参加者は真剣な表情で耳を傾けていました。

「大人は子どもへの先入観をなくし、まなざしを柔らかくするのが第一歩。遊びのきっかけを作れる大人を増やしましょう」という山下先生の話に参加者の多くがうなずき、「まずは家庭の中からきっかけ作りを意識したい」という感想が聞かれました。



パブリックビューイングの様子



会場参加者によるグループトーク



オンライン参加メンバー

糸島市ファミリー・サポート・センター 事業実施要綱改訂のお知らせ

要綱改訂(令和3年4月1日施行)に伴い、各種書類の様式と自家用車による子どもの送迎等にかかる経費(交通費)が変更になります。

会員の皆さんに関わる主な変更点は以下の通りです。

- ▶ 相互援助活動報告書への押印は不要
- ▶ 相互援助活動報告書の記入欄の変更
- ▶ サポート会員の自家用車による子どもの送迎にかかる経費(交通費)が1kmごとに37円で計算

詳しくは、同封の「要綱改訂に伴う主な変更内容」をご覧ください。また、サポート会員には新様式の相互援助活動報告書も同封していますので、4月1日以降の活動の際にご活用ください。新しい報告書は、センターまたはホームページで入手できます。

「おねがい会員」へのお願い

相互援助活動の依頼は、**センター開所時間内(月～土10時～17時・祝日除く)にお電話**でお願いします。

既にサポート会員と顔合わせ済の方は、依頼予定日の前日までにセンターへお申し込みください。**相互援助活動を初めて利用される方**は、サポート会員とのマッチングや事前の顔合わせが必要ですので、遅くとも1週間前までにセンターへお申し込みをお願いします。

センターへの事前のお申し込みがないお預かりや送迎は、相互援助活動と認められず、ファミサポの補償保険が適用されません。

安全に活動を行えるよう、会員の手引きをよく読み、ルールを守ってご利用ください。

